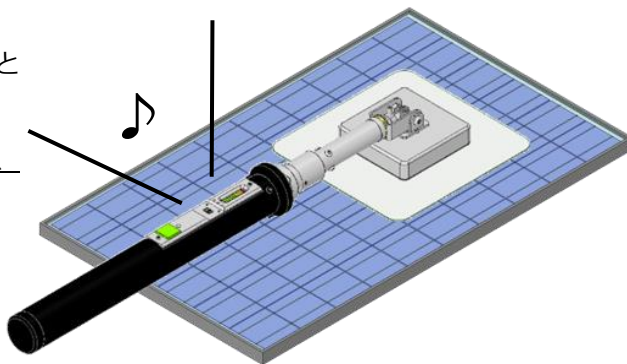


③ ソーラーパネルのカバーガラス面の中央に連携センサーヘッドを密着させます。

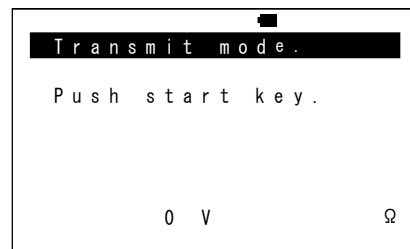
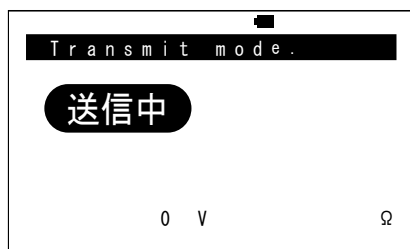
探査信号を受信すると、電子音と
レベルメーターで通知します。

故障パネル特定方法については、
「故障パネル特定編」を
ご覧ください。



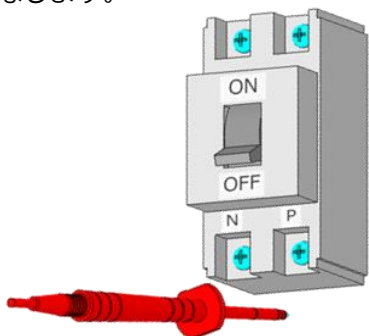
4. 点検作業を終了する

① ソラメンテ-Zの[測定]ボタンを長押しし、探査信号の送信を止めます。



探査信号を送信したままの状態ではなすと、故障の原因になります。

② 断路器のP端子からプローブを
はなします。



③ 断路器を元の状態に戻し、
停止させたパワーコンディショナを
元の状態に戻します。

⚠ 危険

- 太陽光発電設備には高電圧の充電部があり、誤って触れると感電の危険があります。
点検作業を行うときには、取り扱う電圧の区分に適した保護具を着用してください。

⚠ 警告

- 断路器には消弧能力がありません。ストリングに大電流が流れている状態で
断路器を切ると、アークが発生し、感電や火災の原因になります。
断路器を切る前には、遮断器または開閉器を切ってください。
- 断路器の端子からプローブをはなすときには、探査信号の送信を止めてください。
探査信号を送信したままの状態ではなすと、故障の原因になります。

⚠ 注意

- 点検対象である太陽光発電設備の配線図を準備し、点検作業を始める前に、
実際の配線が配線図のとおりであることを確認し、ソーラーパネルがつながれている
順序と位置を把握しておいてください。正しい点検ができなくなります。

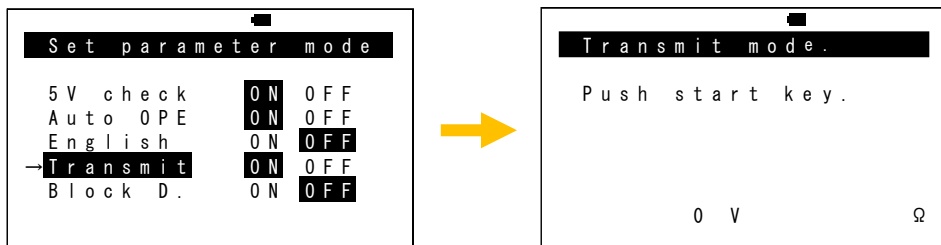
1. パワーコンディショナを停止させる

- ① パワーコンディショナはインバータ機器ですので、動作中に電気ノイズを
発してしまいます。
連携センサーヘッドは、パワーコンディショナが発する電気ノイズを
拾ってしまうと、誤って反応してしまいます。

点検するストリングのパワーコンディショナを停止させてください。
近くに動作中のパワーコンディショナがあれば、それも停止させてください。

2. 送信機(SZ-200またはSZ-1000)から探査信号を送信する

① ソラメンテ-Zの電源を入れて、[送信]モードに切り替えます。



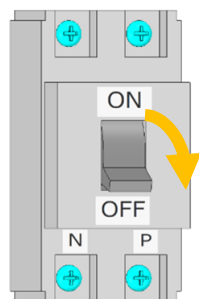
[Transmit]の設定を[ON]に切り替え、[中央]ボタンを押します。

② 接続箱内の接地端子に
GND端子ケーブルをつなぎます。

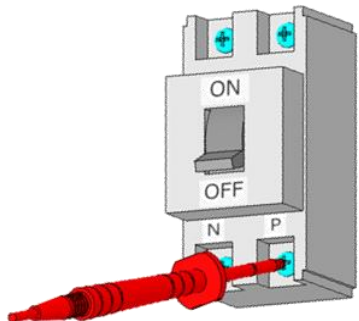


接地端子

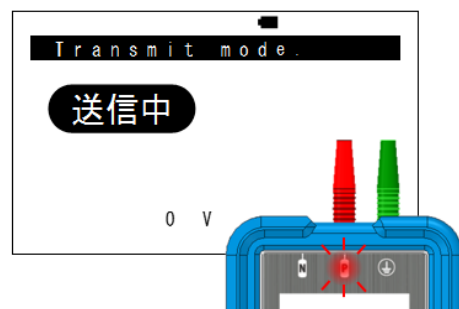
③ 断路器を切り、
ストリングを開放状態にします。



④ 断路器のP端子にプローブを
あてます。

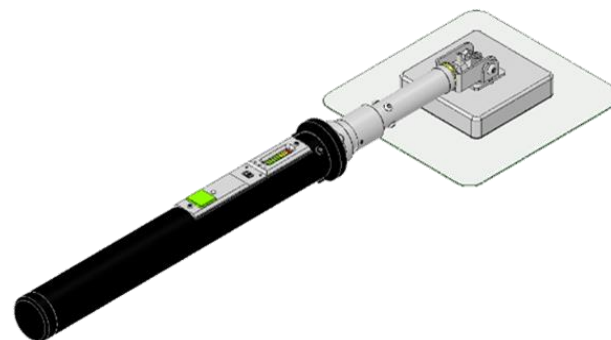


⑤ [測定]ボタンを押し、
探査信号の送信を始めます。



3. 受信機(SI-200)で探査信号を探す

① SI-200の本体ユニットに連携センサーユニットを取り付けて、電源を入れます。



② センサーのゼロ点調整をします。



連携センサーユニットが垂直になるように立てて構え、
[電源]ボタンを短押しします。